



式典の様子

協同組合ファッションシティ甲府(松葉惇理事長)は、団地造成・建築工事が完了し移転作業を開始してから20年を迎えたことから、11月7日(金)に甲府市川田町の組合会館「マイスターホール」において、20周年記念式典を開催した。

当日は、横内正明山梨県知事、山本知孝甲府市副市長、内藤悦次中央会会長をはじめとする多くの来賓、組合員、関係者などが出席し、20周年を祝うほか、記念式典では、永年にわたり組合に対し功績があつた3名の方に感謝状が授与された。

組合は、甲府市街地の住宅地域内に混在していた宝飾・印伝などの地場産業関連の中小企業が、甲府市東部の川田町に団地を建設し住宅地域とは分離した新たな製造拠点を設けることで中小企業の発展に貢献することを目的に平成2年に異業種の工業団地組合として設立された。

団地は、これまでの工業団地というイメージを払拭し、「デザイン性に富んだ高質な建物と地域環境が調和し、ファッション性豊かな美しい街と、緑の多い公園感覚を持った地域に潤いをもたらす街」と定め設計、建設された。平成6年には、団地の愛称を「アリア・デイ・フィレンツェ」、通称「アリア」と定め、現在では、団地内の環境整備活動を積極的に行い環境保全に努めており、非常にきれいなところである。

松葉理事長は団地完成から20年を振り返り先人のこれまでの努力に敬意を示すとともに、組合員の社員がボランティアで行っている団地の環境美化活動が組合のイメージアップに大きな貢献をしていることに感謝の意を述べた。また、倒産による組合員の借入金返済問題の早期に解決し、組合の発展を目指す新たな10年に向けて決意を語った。



松葉理事長をはじめとする組合員